



卓 話



「2011年・辛卯歳の考察」

東洋運勢学会会長・聖徳會会長

源 真里氏

天の気・辛（金・陰）

【辛】 [字音] シン [字訓]
はり・つらい・からい・かの
と。



説文裨 甲骨禰 金文禰

天干・辛は、罪と罰。辛（つら）い・痛い・辛（か）ら。一年のサイクルを終えた草木が枯死し、また新たに生まれかわろうとする象。冬の到来を目前に控え、更新・再生に向けた準備と心構えの必要性を示し、「自律」し「自新」できる精神力と実行力の必要性を示す。その為に大切なのは「言行一致」「信義第一」の姿勢と「聡明であること」。（聡とは、「耳がよくとおる。すばやくわかる。わかりがよい。」ことで、（辛口の批判も）良く聞いて、内容をしっかり理解し、素早く（的確な）判断を下す賢さと、ものごとに対する敏感さ。）それが、今年、上に立つものに要求される姿であり、在るべき姿であり、上がそうなるよう、下からの厳しい突き上げが必要。

地の気・卯（木・陰）

【卯】 [字音] ボウ（パウ） [字訓] さく・ころす・う

説文話歪 甲骨賄 金文脇

地支・卯は①門・②冒・③茂・④貿・⑤殺⑥朝・春⑦天上の雷…の意味を持つ。①門を押し開いて新たな（未知・未開・危険）世界に入り込み、②無理に門を押し開けて中に入り込まれる。③新たな世界は無秩序に繁茂する可能性と未熟さを併せ持つ新芽、苴が地を覆う。⑤希望・願いを叶えるためには犠牲を伴う。⑥朝は新たな長い一日、春は長い一年のスタート。

⑦天上は雷鳴が轟くが、騒ぎと声だけ大きくて実体は無い。雷鳴が轟くとき地上は土砂降りの暴風雨に晒される。等の意味を持つ。

そんな「卯の年」には、新しい、若い、敏感、敏捷、瞬発力、新鮮、挑戦、勇気、希望、仁（おもいやり、いつくしむ心）、怒り、などがキーワード。これらの良い面も悪い面も表出するので、そのプラス面を引き出し、マイナス面を補う必要がある。

来年は卯の悪い面が出やすい。「卯の弱点」故に墓穴を掘って、後の禍根となる傾向が心配。

拙速、短絡、無謀、無計画、無思慮、未熟、焦り、慌てる、驚く、ハッター、若い、新しい、性急、であることのリスクに注意が必要。

春の失策は秋の不作。ひいては飢餓を招く。先への展望と、明確な目標。それを実現するための綿密な計画性が不可欠で、熟慮・熟考が何より大切。

特に、新たなことに対する対応の誤りは後に大きな危険をもたらす。卯は門であり扉。新たな地平への扉であり未知の危険への入口でもある。初めの間違いが間違ったゴールに導く。何事も最初が肝腎であることを痛感する。

辛卯の組み合わせ

天干「辛（金）」と地支「卯（木）」が対沖して相剋の関係。

どちらも「上」が「下」を苦しめる形。

どちらも陰と陰。上下の気は通じず相反・対立の関係。世代間も対立・乖離。

天（上）が地（下）を剋害する中、理不尽なプレッシャーに如何に立ち向かうかが課題。真剣味と緊張感を欠いて面倒な問題から目を逸らし、適当に受け流すその場かぎりの痛み止めを処方するような対処は言語道断。

卯は木、五味は酸。七赤・辛は金、五味は辛。今年辛酸の組み合わせ。

卯は木、五常は仁。七赤・辛は金、五常は義。今年仁と義が不可欠。

仁は思いやり、慈しみの心。礼に基づく自己抑制と他者への思いやり。礼とは規範・作法に則って他者を尊重する姿勢。ルールの遵守こそがポイント正義、義理とはものごとの正しい筋道・道理。理に適った正しい筋道。